

**産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会電力安全小委員会  
電気設備自然災害等対策 WG（第 21 回）－議事要旨**

日時：令和 6 年 9 月 10 日（火） 17：00～19：00

場所：Teams 開催

出席者

＜委員＞

白井座長、貝塚委員、河井委員、小島委員、田中委員、田村委員、松井委員、山田委員

＜説明者＞

北陸電力送配電株式会社、JERA パワー武豊合同会社、株式会社 JERA、石狩バイオマスイナジー合同会社、九電みらいエナジー株式会社

＜経済産業省＞

前田電力安全課長 他

議事概要：

○令和 6 年能登半島地震への対応について

＜委員・オブザーバー（以下「委員等」という。）からの主な御意見＞

- ・地震によって被害を受けた再エネ発電所について、教訓として構造的な性能要求や設計方法に反映させていく必要があるのではないか。
- ・復旧が長期化する箇所は、被害状況を考慮した復旧目処を立てる必要があるのではないか。
- ・地元から停電情報や復旧見込み以外に欲しい情報について意見はあったか。
- ・災害時のドローン運用調整やドローン操作者の確保について具体的な確認が必要ではないか。
- ・道路、通信など他のインフラ事業との相互連携が重要ではないか。

＜事務局・説明者（以下「事務局等」という。）からの回答＞

- ・特徴的被害のあった再エネ発電所については、事故調査の結果新たな知見が得られた場合には業界内に展開する。
- ・結果的に 1 月後半まで復旧目処が立てられなかったが、地元に対してどのように復旧目処に関する情報を伝えていくかについては、今後も検討を続ける。
- ・SNS での情報発信に対しては、情報提供に関する要望というよりも、復旧従事者への励ましの声や感謝の声が多かった。
- ・災害時のドローン運用は現地調整の仕方を含めて情報展開しており、また、各社においてドローン操作者の育成を計画的に進めている。
- ・平時から他のインフラ事業者等と連携をすることにより、有事の対応に役立てていく。

○バイオマス発電所における爆発・火災事故及びその対応について

＜委員等からの主な御意見＞

- ・石狩新港の事故において、燃料由来の原因として受入時点で粉化が進んでいた可能性もあるのではないか。そうであれば、受入時の検査と供給側に対する情報共有も必要。
- ・粉じんが原因の事故があまりにも多い印象。事故の原因は粉じん又は発酵したガスであるということであれば、それを監視する基準やそれが技術的に難しければ別の対策が必要。

- ・安全のための手順書どおりに対応したにも関わらず事故を防げなかったことについてどう考えているのか。当該手順書をもう少し詰めるべきではないか。
- ・ベルトコンベアの下げるという今回の改善対策で、長期運用・連続稼働させる場合においても、爆発下限界濃度を超えない条件を継続的に満たすことができるのか。
- ・バイオマスはかなり事故が多い印象。今回は人的な事故にも繋がっており、非常に憂慮すべき事態であるため、危機管理体制についてもしっかりと検討すべき。
- ・バイオマスの燃料種によって火災のリスクが異なることも十分考慮していただきたい。

#### <事務局等からの回答>

- ・受入時の粉化も含め、燃料由来の原因分析を行って対応策を考えていく。
- ・粉じん濃度が鍵になると捉えているが、調査を行った結果、爆発下限界に近い高濃度を常時測定することは技術的にかなり難しい。一方で、試験装置により搬送速度を引き下げることで爆発下限界濃度より非常に低い濃度となるため、有効と認識している。
- ・手順書のどこに不足があったかをしっかりと検討して手順書にフィードバックしていく。
- ・人身事故を起こしており、非常に重い話であると認識しているため、要因分析を行い、人身事故に繋がらない対策も検討していく。

### ○蓄電池設備における爆発・火災事故及びその対応について

#### <委員等からの主な御意見>

- ・設置や設計で事故が防げることもあるので、事故が起きた場合には原因を分析して、事故再発に努めるような取組をお願いしたい。
- ・どこかで発火した場合に、ユニットやモジュールなどで延焼を食い止めることができな  
いか、どの範囲でその部品の不具合を封じ込めることができるかということまで考えなければ、使用している部品の信頼性に対する要求が非常に上がってしまう。

#### <事務局等からの回答>

- ・設置や設計という観点も考えて対策に入れていきたい。業界や関係者とも議論して、制度への落とし込みや業界での展開などをお願いしたい。
- ・ユニットごとに類焼を止めるなどの合理的かつ安全な対策とは何か、業界や関係者と議論して具体的策を検討していきたい。

### ○大規模太陽電池発電設備における火災事故及びその対応について

#### <委員等からの主な御意見>

- ・太陽光の発電所はアクセスしにくい場所にあることがあるが、消火活動がしやすいような設備を備える必要があるのではないか。
- ・消防等への通報について、今後何か検討するのか。

#### <事務局等からの回答>

- ・設備として、周りの燃えやすいものへの対策を考えている。全体として何ができるか消防、業界や関係者と相談して、できることをやっていきたい。
- ・どのように火が出たらすぐに消防へ通報するか、設置者にしっかりと伝えなければいけないと考えており、どういうことができるか、業界や関係者と検討してまいりたい。

#### 問い合わせ先：

経済産業省産業保安・安全グループ電力安全課